

若者よ 頭の芯が疲れ果てるほど、考えよ

—東京工業大学学長 三島良直先生から学ぶこと—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 先日、東京工業大学の学長である三島良直先生の本が、「蔵前ジャーナル」という東京工業大学の同窓会の雑誌で読ませていただきました。テーマは、「若者よ 頭の芯が疲れ果てるほど、考えよ」でした。
3. 2012年10月から東京工業大学の学長になられた三島先生は、「世界レベルの人材を輩出することが世界最高の理工系大学の道だ」、「マサチューセッツ工科大学やカリフォルニア工科大学とは歴史的な建学の精神は違うけれども、東京工業大学だからこそできる特色のある教育を行って、世界レベルの人材を輩出すること。それこそが東京工業大学の一番の目標だ」と宣言なさっています。
4. これからは、海外でも通用する立派なグローバル人材を育成することが必要になり、そのためにも、ものづくりだけではなく、ことづくりのようなことを融合して、大きなビジネスにまとめられる力が必要になるということで、「これからの東京工業大学では、ものづくりを超えたものづくりを目指したい」ということも述べておられます。
5. 「品質の高いものを作るだけではなく、その使われ方や、それが使われるために必要とされる機能まで考えられるエンジニアや科学者がこれからは求められる。そのためには、自分の専門知識が深いことは当たり前で、科学技術的にも幅を持たなくてはならない。専門以外の異なった分野の教養も身に付けたほうがよい」ということを非常に強調されておられます。私もそのとおりだと思います。専門分野も大事ですが、専門分野以外の異なった知識や教養も大事だと思います。そして、「そのようになれば、日本からもスティーブ・ジョブスのような人が現れるだろう」ということでした。
6. ところが、「日本の若者は教わるという意識が強く、頭の芯が疲れ果てるくらいもの考えるという訓練をしていない」、「例えば宿題が出ても、考えようとする前にインターネットで質問に対する答えを探し、何かを見つけたらそれでレポートを書き上げてしまい、自分で考えようとしません。最近はそのような人も多し。それが最大の問題だ」ということです。

7. 『インフォメーション(情報)はナレッジ(知識)ではない』という言葉があります。知識とは取ってきた情報ではなく、それを自分の頭の中で自分の中にどのように取り込むかが大事です。そのためには、ものすごくハードな勉強が必要だ」と述べ、「ハードな勉強をさせるべきだ」と三島先生は思っています。
8. また、「先生(教員)は、どのような教育をすればよいかということ在必死に考えて、『研究する時間が減ってしまう』などと言わずに、まず教育に専念してほしい。毎年同じ講義を繰り返すのではなく、知識ではなく考え方を試す訓練を施し、学生が確実にレベルアップしていく工夫をして、クリアしなければ単位を取得させない、そのような厳しい教育が必要な時期になっている」ということもおっしゃっています。「当然、最初は『あの先生の講義はすごく厳しいらしいから取らないようにしよう』と学生に言われるでしょうが、先生方皆さんがそうなれば、必死にならないと卒業できないという雰囲気ができ上がります。それが、スタートです。そのようなハードな勉強なしでは、将来スティーブ・ジョブズのように『おまえの専門と俺の専門とを融合させて何か大きな絵を描け』と言われても、描けないと思うのです。結局、今の学生の体質は受験勉強の弊害だろうと考えられます。受験のシステムを変えるのはなかなか大変な作業です。しかし、この6月に文科省の大学改革のいろいろなプランが出ました。入試制度を含めて教育を大胆に考え直せるチャンスになりましたので、今までの日本で触れられなかったものに触れるチャンスがこれから来るということが考えられます」と述べ、「自分たちは世界最高レベルの東京工業大学の一員なのだということをしっかり自覚して、思い切り新しいことにチャレンジをしていきたい」とおっしゃっています。東京工業大学は「自覚と熱意を持って挑戦し続ける大学へ」ということをこれから目指すそうです。
9. 翻って、例えば栃木県には、宇都宮大学、足利工業大学、帝京大学、獨協医科大学、自治医科大学はじめ素晴らしい大学がたくさんあります。群馬県、茨城県にも素晴らしい大学がたくさんあります。北関東の大学でも、東京工業大学が行っている「頭の芯が疲れ果てるほど考えて行動する」ということを、ぜひやっていただければと思います。
10. 最後になりましたが、学力を身に付けるために一番大事なことは、言葉の意味を確かめながら教科書を読んだり、授業中に取ったノートを読み直したりすることだと思います。よく意味のわからない語句に出合ったら気持ちが悪いと思い、国語辞典や英語の辞典などを使って言葉の意味を確かめる。また、各科目ごとに用語集が出ていますので、それを使ってわからない語句を確かめたり調べたりする。そして、それらをノートに書いたりカードに書いたりして徹底的に身に付ける。そうすると知識の量が増えます。そのような基礎的な知識があった上で、頭の芯が疲れるほど考えることをすれば、世界中の方々と戦えるといいますか、自分自身の人生の選択肢が増えるということです。ですから、ぜひ皆さんも考えることをしていただければと思います。
11. 今日は、東京工業大学の三島良直先生が「蔵前ジャーナル」にお話になった「若者よ 頭の芯が疲れ果てるほど、考えよ」という文章を参考にしてお話をさせていただきました。皆さんはどのようにお考えですか。